



Newsletter

2023年3月発行

日本在宅ケア学会

No.16

一般社団法人日本在宅ケア学会
事務局

〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋1-1-1
パレスサイドビル
TEL: 03-6267-4550
FAX: 03-6267-4555

令和4年度日本在宅ケア学会 委員会活動紹介および活動報告

「まちかどフォーラム」から見たもの

加瀬 裕子 (生涯教育委員会 委員長)

石川達三はブラジル移民を題材とした「蒼氓」を書いた理由を、「私はこれまでに、こんな巨大な日本の現実を眼にしたことはなかった。そしてこの衝撃を、私は書かねばならぬと思った」と述べている。在宅ケアに関わる人々も、そこで出会った人々の現実に衝撃を受けて行動を起こしたのではないだろうか。医療や介護を担う人々は、人々を助ける崇高な存在として描かれることが多いが、そうではない。自分の「衝撃」を忘れないのだと思う。

「まちかどフォーラム」は、そんな思いを聞ける場である。「まちかどフォーラム」は、生涯教育委員会の企画で月に1回（第3木曜日）18時30分から1時間だけ行われるZoomによる交流会である。参加者は30名を超えることはないのだが、仕事帰りにラジオのように聞き流すことが出来る「おしゃべりの場」となっている。

当初は、在宅ケア実践者と研究者の交流の場をつくるという理由で開始したのだが、既に3回を重ねると次第にその本質が見えてきた。参加者は「まちかどフォーラム」で元気をもらえる、励まされる、と言ってくれる。語られる内容は、概して日常の出来事である。第3回目では、

小さな訪問看護ステーションの事務担当者が急死してしまい、パソコンが開けなくなったという相談が寄せられた。私たちは、そんな苦勞を抱えながら頑張る訪問看護師がいるという事実小さな「衝撃」を感じるのである。



予防から看取りまで
～コミュニティナーズの役割～

中村 悦子 (社会福祉法人 弘和会
訪問看護ステーション みなぎ)

私は、地元の公立病院で退院調整や訪問看護を経験したのちに、栄養サポート室の専従看護師に拝命されました。その時に孤独な独居老人や、頑張って遠方の大学病院に通院している難病患者さんや、若いがん患者さんとの出会いがあり「病院の待合室が唯一の外出の場であってはいけない」「遠方の病院に受診していても地元で病気のことを相談できる場所が地域に必要だ」と気がついたのです。

そして、55歳の春に思い切って病院を退職し、地元のショッピングセンターの空きスペースを利用して「みんなの保健室わじま」という気軽に無料相談ができる居場所を作りました。そこでは食支援も視野に入れた日替わりランチを提供できる「みんなのカフェわじま」も運営していました。

現在は老朽化して居場所的に難しくなった



ショッピングセンターから移転し「社会福祉法人」に在籍して2ヶ所の訪問看護ステーションの管理者をしながら、健康でも、病気になっても、障害が残っても、いつ来てもいいし、いつ帰ってもいい居心地のいい居場所づくりを目指した活動を継続しています。そして、居場所に通えなくなっても訪問看護を利用して住み慣れた場所で生きられることが出来るように支援しています。

高齢少子化が進む中、地震や大雪など自然災害も少なくない過疎地で、病院に頼らない身体作りと、障害が残っても受け入れることが出来る地域作りを目指しています。

そんな中で我々コミュニティナーズの役割は大きく、自分自身の生き甲斐にも繋がるのです。



日本在宅ケア学会 新体制のご紹介
— 令和4～5年度理事・監事一覧および委員会名簿—

◆理事長◆



亀井 智子
聖路加国際大学大学院看護学研究科

日本在宅ケア学会理事長の命をいただきました。コロナに翻弄された過去3年間でしたが、当学会の学際性を生かし、在宅ケアの質的向上のために全力で取り組みます。刊行に漕ぎつけた「在宅ケア実践ガイドライン」の普及と改訂に取り組みます。コロナ対応看護職員研修やケアイノベーション研修、生涯教育研修など、多様な学修の機会も設け、研究助成制度も継続します。会員のみなさまのご参画をいただきながら闊達な学会運営を行い、在宅ケアの教育・研究・実践によりwithコロナ社会に大きく貢献するよう、理事会そして外部団体との連携も図り着実に進めてまいります。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

◆副理事長◆



中谷 久恵
広島大学大学院医系科学研究科

長引くコロナ禍のなか、ケアの第一線でご尽力いただいています皆様に感謝とお礼を申し上げます。今年度より副理事長を拝命いたしました。委員会では看護系学会等社会保険連合（看保連）を担当いたします。理事長の重責をご支援できるよう努めますとともに、会員の皆様には学会活動や会員である意義をお伝えできる運営ができますよう心掛けてまいります。微力ではございますが何とぞよろしくお願い申し上げます。

◆理事◆



上野 まり
自治医科大学看護学部老年・在宅看護学

今期もよろしくお願い申し上げます。コロナ禍において、新たな課題を突き付けられる場面が増

えました。不安定な世情の中で、全世代の人々に小さな幸せをもたらすのは、安定した日常生活だと痛感する日々です。



牛久保美津子
群馬大学大学院保健学研究科

実践・研究助成委員会の委員長を拝命いたしました。COVID-19による活動への支障がある中、会員のみなさまには、助成金のご活用をされ、大変なときだからこそ、積極的な実践・研究活動に取り組んでいただきたく思います。



内田恵美子
一般社団法人日本在宅ケア教育研究センター

理事として政策提言検討委員を選びました。在宅ケア（在宅医療）の実践・実態を踏まえ、在宅ケアが発展できるよう活動していきたいと思えます。会員のみなさま方のご意見をよろしくお願いいたします。申し上げます。



榎本 雪絵
杏林大学保健学部理学療法学科

このたび初めて理事、ガイドライン作成・改訂委員を拝命いたしました。みなさまからのご意見、ご指導いただきながら、学会活動に貢献できるよう、努めてまいります。

何卒よろしくお願い申し上げます。



尾崎 章子
東北大学大学院医学系研究科

このたびガイドライン作成委員会委員長を拝命致しました。2022年4月、亀井前委員長をはじめ

とする委員の先生方、レビュー協力者のみなさまのご尽力により、「在宅ケア実践ガイドライン2022」が策定されました。今期の委員会は、現行の臨床疑問についてエビデンスの更新を行うとともに、新たな重要課題に関するエビデンスを盛り込み、改訂版ガイドラインの策定を通して、ケアの科学的根拠の明確化に貢献することが課題です。何卒、お力添えのほどお願いいたします。



加瀬 裕子
Western Sydney University
School of Social Sciences
早稲田大学名誉教授

生涯教育委員会委員長（社会福祉系学会担当併任）を拝命しました。会員の意見交流の場としてZoomによるミーティング「まちかどフォーラム」の実施や、公開講座などを企画して生涯教育を推進したいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



片山 陽子
香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科

この度初めて理事を拝命いたしました。総務担当、在宅ケアイノベーション研究研修委員として活動してまいります。在宅ケアの推進、質の向上に貢献できるよう尽力いたします。どうぞよろしくお願い致します。



金盛 琢也
浜松医科大学医学部看護学科

この度初めて理事に選出いただき、またガイドライン改訂委員会委員長に任命いただきました。「在宅ケア実践ガイドライン」改訂に向けて、エビデンスの更新や推奨の見直し等を進めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



萱間 真美
国立看護大学校

本学会理事を初めて拝命いたしました。倫理委員長を務めることとなりました。多職種での活動

ができますことを楽しみにしております。どうぞよろしくお願い致します。



菊地ひろみ
札幌市立大学看護学部大学院看護学研究科

この度、初めて理事を拝命しました。学会活動推進委員を務めさせていただきます。皆様の力をお借りしながら、どこにいても安心・安全に暮らせる在宅ケアに向けて、微力ながら頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



河野あゆみ
大阪公立大学看護学部地域包括ケア科学分野

学会誌の編集委員長をはじめ担当させていただきます。

会員のみなさまに一層親しみやすい学会誌となるよう、これまでの編集委員長のご方針を引き継ぎながら活動を進めて参ります。

在宅ケアの発展につながるみなさまの論文の投稿をお待ちしております。



河野 光伸
金城大学医療健康学部

この度理事を拝命し、広報委員長、ガイドライン作成委員を担当させていただくことになりました。在宅ケアに関わっているみなさまによりよい情報が届けられるよう努めたいと思います。微力ではございますが、よろしくお願い致します。



小西かおる
大阪大学大学院医学系研究科

2023年11月11日(土)、12日(日)に大阪大学コンベンションセンターで開催される第28回日本在宅ケア学会学術集会 [ともいき (共に生きる) - 在宅ケアにおけるSDGsへのアプローチ] の大会長を務めます。多くの方のご参加をお待ちしています。



下田 信明
東京家政大学健康科学部リハビリ
テーション学科

第27回学術集会では、みなさまに大変お世話になりました。誠にありがとうございました。今後は、学会活動推進委員長として活動します。保健・医療・福祉・教育などにおける多彩な職種が集う本学会の特色を生かし、会員や一般市民のみなさまの役に立つ活動を行いたいと思います。みなさまからのご意見・ご指導をいただければと存じます。



高砂 裕子
南区医師会訪問看護ステーション

初めて理事を拝命し、在宅ケアに関わる現場の方と教育職の方、さらに多職種との実践や研究成果を共有できる場で、これからの超高齢化社会に対応すべくさまざまなケア環境の変化を会員のみなさまと創造していきたいと思ひます。



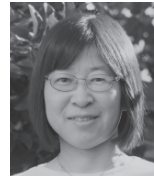
辻 彼南雄
水道橋東口クリニック

今期も理事を務めさせていただきます。医療実務者の視点から、在宅ケアイノベーション研究研修委員を担当します。地域在宅ケアの最前線で働く多職種のみなさまにも参加していただけるような学会活動のお手伝いをしたいと思ひます。会員のみなさまのご意見をお聞かせください。



長江 弘子
亀田医療大学看護学部

総務理事として就任しました亀田医療大学の長江弘子と申します。今期が最後になりますが在宅ケアガイドラインをはじめ、在宅ケアの質向上に向けた取り組みが進み、今後益々本学会が発展するよう努力したいと思ひます。



永田 智子
慶應義塾大学看護医療学部

前回に引き続き、理事を拝命いたしました。会計担当として、学会活動が活発に、かつ円滑に行われるよう努めてまいりたいと思ひます。引き続きご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。



服部ゆかり
東京大学医学部附属病院老年病科
水道橋東口クリニック

この度始めて理事を拝命し、ガイドライン作成委員会を担当させていただきます服部ゆかりと申します。

老年科医として大学病院と在宅療養支援診療所の二つの施設に勤務し、「高齢者を地域で最期までどう支えていくか」に関心を持っています。本学会で様々な専門性を有する研究者や在宅ケアに従事する方々からご指導頂きながら、頑張っていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

◆監事◆

石垣 恭子
兵庫県立大学看護学部・看護学研究科

この度、一般社団法人日本在宅ケア学会の監事として就任いたしました。

法人の業務及び財産状況をしっかりと監査し、透明感のある学会運営の一翼を担いたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



村嶋 幸代
大分県立看護科学大学理事長・学
長

在宅ケアは、多様な職種が関わって成り立つ世界ですが、日本在宅ケア学会は、多様な職種が理事を務めている点が良いと思ひます。

本学は、2011年からナースプラクティショナー(NP)を養成しています。今後、在宅ケアの分野にも多数入ってきて欲しいと思ひます。

◆委員会新体制名簿◆

〈編集委員会〉

委員長：河野あゆみ（大阪公立大学看護学部地域包括ケア科学分野）

副委員長：永田 智子（慶應義塾大学看護医療学部）

委員：石橋みゆき（千葉大学大学院看護学研究科），牛久保美津子（群馬大学大学院保健学研究科），小野若菜子（聖路加国際大学大学院看護学研究科），加瀬 裕子（Western Sydney University），久篠 奈苗（東京家政大学健康科学部リハビリテーション学科），柏木 聖代（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科），岡本双美子（大阪公立大学大学院看護学研究科），竹本与志人（岡山県立大学保健福祉学部現代福祉学科），岡田 直人（北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科），古瀬みどり（山形大学大学院医学系研究科），増田 和高（武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科），梶井 文子（東京慈恵会医科大学大学院医学研究科），成瀬 昂（東京大学大学院医学系研究科）

〈学会活動推進委員会〉

委員長：下田 信明（東京家政大学健康科学部リハビリテーション学科）

委員：三輪 恭子（大阪公立大学大学院看護学研究科），菊地ひろみ（札幌市立大学看護学部），鈴木優喜子（杏林大学保健学部）

〈広報委員会〉

委員長：河野 光伸（金城大学医療健康学部）

委員：森下 安子（高知県立大学看護学部），黒田 研二（西九州大学健康福祉学部），子吉知恵美（金城大学看護学部在宅看護学）

〈倫理委員会〉

委員長：萱間 真美（国立看護大学校）

委員：綾部 貴子（梅花女子大学），小西かおる（大阪大学大学院医学系研究科），瀧澤 利行（茨城大学教育学部），河野あゆみ（大阪公立大学看護学部地域包括ケア科学分野）

〈政策提言検討委員会〉

委員長：高砂 裕子（南区医師会訪問看護ステーション）

委員：長江 弘子（亀田医療大学看護学部），上野 まり（自治医科大学看護学部老年・在宅看護学），内田恵美子（一般社団法人日本在宅ケア教育研究センター），成瀬 昂（東京大学大学院医学系研究科），藤野 泰平（株式会社デザインケアみんなのかかりつけ訪問看護ステーション），吉江 悟（一般社団法人Neighborhood Care），岩本 大希（WyL株式会社）

〈論文賞選考委員会〉

委員長：小西かおる（大阪大学大学院医学系研究科）

委員：中谷 久恵（広島大学大学院医系科学研究科），亀井 智子（聖路加国際大学大学院看護学研究科），河野あゆみ（大阪公立大学看護学部地域包括ケア科学分野）

〈実践・研究助成委員会〉

委員長：牛久保美津子（群馬大学大学院保健学研究科）

委員：神部 智司（大阪大谷大学人間社会学部），新井香奈子（滋賀県立大学人間看護学部），柏木 聖代（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科），平澤 則子（長岡崇徳大学看護学部看護学科）

〈生涯教育委員会〉

委員長：加瀬 裕子 (Western Sydney University School of Social Sciences)

委員：内田 和宏 (敬心学園職業教育研究開発センター), 岩垣 穂大 (金城学院大学), 扇原 淳
(早稲田大学人間科学学術院), 古川 美和 (杏林大学保健学部看護学科)

〈ガイドライン作成委員会〉

委員長：尾崎 章子 (東北大学大学院医学系研究科)

副委員長：亀井 智子 (聖路加国際大学大学院看護学研究科)

委員：服部ゆかり (東京大学医学部附属病院), 増田 和高 (武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科), 河野 光伸 (金城大学医療健康学部), 河田 萌生 (聖路加国際大学大学院), 清水 恵 (東北大学大学院医学系研究科)

〈ガイドライン改訂委員会〉

委員長：金盛 琢也 (浜松医科大学医学部看護学科)

委員：臺 有佳 (神奈川県立保健福祉大学看護学科), 平原 優美 (日本訪問看護振興財団あすか山訪問看護ステーション), 榎本 雪絵 (杏林大学保健学部理学療法学科)

〈在宅ケアイノベーション研究研修委員会〉

委員長：上野 まり (自治医科大学看護学部老年・在宅看護学)

副委員長：片山 陽子 (香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科)

委員：岩本 大希 (WyL株式会社), 江田 純子 (岡山県看護協会), 金盛 琢也 (浜松医科大学医学部看護学科), 亀井 智子 (聖路加国際大学大学院看護学研究科), 河田 萌生 (聖路加国際大学大学院), 真田 弘美 (石川県立看護大学), 高砂 裕子 (南区医師会訪問看護ステーション), 谷垣 静子 (岡山大学大学院保健学研究科), 玉井 奈緒 (横浜市立大学医学部看護学科), 辻 彼南雄 (水道橋東口クリニック), 中山 優季 (東京都医学総合研究所), 長江 弘子 (亀田医療大学看護学部), 松本 勝 (石川県立看護大学看護学部), 三浦 由佳 (藤田医科大学社会実装看護創成研究センター)

令和4年度日本在宅ケア学会論文賞受賞に寄せて

— 優秀論文賞受賞者、奨励論文賞受賞者より —

◆令和4年度日本在宅ケア学会優秀論文賞



影山 康博

早稲田大学大学院人間科学研究科

■受賞論文 原著

医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師の退院支援実践力の構成因子と職種間の差異

— 2職種における専門スキルの強み —

影山 康博 (早稲田大学大学院人間科学研究科)

このたびは日本在宅ケア学会優秀論文賞を賜り、大変光栄に存じます。本研究にお力添えいただきましたすべてのみなさまに心から感謝申し上げます。

本研究では、急性期医療機関の医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師の退院支援実践力の構成因子を明確化し、両職種の実践力の差異を明らかにして、2職種における専門スキルの強みを探索いたしました。この受賞を励みに、医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師間の連携について、その大切さを伝えていけるような研究を重ね、在宅ケアのさらなる発展に少しでも貢献できるよう努めたいと存じます。今後ともご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

◆令和4年度日本在宅ケア学会奨励論文賞



渡辺 忍

茨城県立医療大学保健医療学部看護学科 准教授

■受賞論文 原著

介護支援専門員の情報把握の実態と関連要因：在宅でインスリン療法を行う要介護者のケアマネジメントに焦点をあてて

渡辺 忍 (茨城県立医療大学保健医療学部看護学科准教授)

このたびは奨励論文賞を賜り、大変光栄に存じます。

本研究にご協力くださいました介護支援専門員のみなさま、丁寧にご助言くださった査読者に心より感謝申し上げます。

今回受賞した論文は、インスリン療法を行う要介護高齢者のケアマネジメントに焦点をあて介護支援専門員の情報把握の実態を明らかにし、医療と介護間の情報共有の課題を検討した研究でした。

本研究で示された結果は、他の医療的ケアが必要な要介護者支援においても同様の傾向があると考えています。在宅ケアでは多職種連携の要である介護支援専門員が医療者との積極的な情報共有手段を確立することで、在宅ケアチーム全体の情報共有につながっていく可能性があると考えます。しかしながら、本研究の結果として示された介護支援専門員を中心とした医療と介護相互の情報共有の働きかけは課題解決のためのスタートに過ぎません。これから、みなさまの実践に活かしていただくことが非常に重要だと考えております。

私自身も今回の受賞を励みに、これからも在宅ケアの向上に寄与する研究に取り組んでまいります。

各種ご案内

ニュースメール配信用 メールアドレス登録のお願い

本学会では、会員のみなさまへ迅速に情報提供を行うために、「ニュースメール」（不定期／年数回）を配信しております。未登録の方は会員専用サイトよりご登録いただくか、会員登録事項変更届のご提出をお願い申し上げます。

実践および研究助成金について

■第10回実践・研究助成金募集結果■

〈2023年度助成者〉

- ◇「中国語の対応が可能なデイサービスを利用しながら在宅生活を送る中国帰国者の現状と支援課題」
YAN QIJUN（アンキクン）（群馬大学大学

院保健学研究科)

※助成額：20万円

- ◇「在日外国人への訪問リハビリテーション提供に向けた文化感受性のあるインテイクシートの開発」

河野 眞（国際医療福祉大学）

※助成額：18万円

- ◇「訪問看護ステーションの看護管理者のワーク・エンゲイジメント向上プログラム開発およびその効果の検証」

中村 眞弓（防衛医科大学校）

※助成額：20万円

■第11回実践および研究助成募集について■

募集期間：2023年10月1日～11月30日（予定）

応募資格：実践および研究代表者は、当学会員（入会手続きが完了している者）であり、該当年度の会費を振り込んだ者。

※詳細が決定次第、学会ホームページに掲載予定。

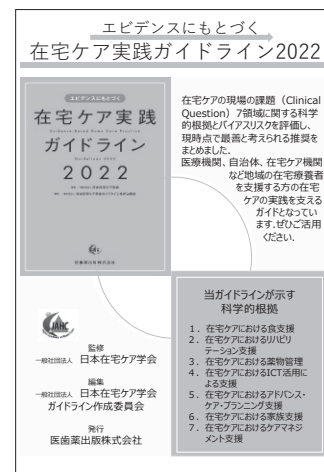
「エビデンスに基づく在宅ケア実践ガイドライン」のご案内

日本在宅ケア学会ガイドライン作成委員会は5年の月日をかけて、在宅ケア現場の課題であるClinical Questionを7つとりあげ、各々についてシステマティックレビューとメタアナライシスをすすめ、結果に基づいて、7領域に関する科学的根拠とバイアスのリスクを評価し、現時点で最善と考えられる推奨をまとめ、「エビデンスに基づく在宅ケア実践ガイドライン」を2022年4月に刊行しました。

会員のみなさまには、すでにお届けしておりますが、ぜひ貴施設の図書館等での購入についてご推薦頂きたく存じます。また、お知り合いの実践現場の方々にもぜひご推薦を頂ければ幸いです。

「在宅ケア学会実践ガイドライン」は以下から購入できます。下記チラシもご覧ください。

<https://www.ishiyaku.co.jp/search/details.aspx?bookcode=237630>



第28回日本在宅ケア学会学術集会のご案内

- **テーマ**：ともいき（共に生きる）～在宅ケアにおけるSDGsへのアプローチ～

<https://jahc28.yupia.net/>

- **大会長**：小西かおる（大阪大学大学院）

- **会期**：2023年11月11日(土)・12日(日)

- **会場**：大阪大学コンベンションセンター（大阪府吹田市山田丘1-1）

<https://facility.icho.osaka-u.ac.jp/convention/map.html>



学術集会の趣旨

本大会のテーマは、2016年に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」に地域共生社会が盛り込まれ、誰もが支え合う地域の創成を目指し全国各地で様々な取り組みが行われていること、「持続可能な開発目標（SDGs）」の17の目標および169のターゲットを「自分ごと」として捉え、それぞれの活動、生活の中に浸透させていくことが求められていることから、「ともいき（共に生きる）～在宅ケアにおけるSDGsへのアプローチ」とし、すべてのプログラムにSDGsの17の目標をあてはめ、ともいき（共生）社会における持続可能な在宅ケアのあり方を議論することとし、参加者一人ひとりが「自分ごと」として命のつながりや人の縁を大切に、共に支え合い助け合い生きる活動に貢献することを目的に開催することにしました。

会場で交流できる多様なプログラムとオンデマンド企画の充実

久しぶりに会場で参加者と交流を深めたいと考え、4つの公開シンポジウム、パネルディスカッション、7つのワークショップ、基調講演、ランチョンセミナーを現地開催し、一部をオンデマンド配信します。オンライン参加の方々にもお楽しみいただけるように、教育講演等のオンデマンドプログラムも多数企画しています。会場での口述発表も予定しておりますので、多くの一般演題のご登録をお待ちしております。プログラムの詳細は学術集会ホームページをご確認ください。

在宅療養者・ご家族・支援者の声を大切にしたりアリティあるプログラム

本学会はこれまでも在宅療養者とその家族や地域住民の参加を大切にしてきましたが、プログラムの一部を無料公開し、在宅療養者とそのご家族をはじめ高校生・大学生・社会人に対象を拡大することで、多様性のある社会やともいき（共生）社会を「自分ごと」として考える機会になればと願っております。人工呼吸器装着のALS療養者をはじめ多くの当事者にご登壇いただく予定です。当事者と語り合う学術集会をお楽しみください。紅葉がきれいな時期に、みなさまと大阪でお会いできるのを楽しみにしております。

- **一般演題登録・事前参加登録期間**：2023年4月1日(土)～6月15日(木)

- ◆ **学術集会事務局**：大阪大学大学院医系科学研究科地域ヘルスケアシステム科学研究室

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-7 E-mail：jahc28@sahs.med.osaka-u.ac.jp

- ◆ **運営事務局**：株式会社ユピア

〒456-0005 名古屋市熱田区池内町3-21 E-mail：jahc28@yupia.net